

	評価指標	1 学期	2・3 学期	来年度						
学童指導	<p>仲間の考えと自分の考えを比べて聞いたり、仲間に分かりやすく、工夫して話したりすることができる</p>	<p>【児童・生徒の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の学習目標の手立てとして取り入れてきたことで、聞く意識レベルが上がったことにより、話せる子が増えてきた。 ・内容面では、「仲間に伝えるために、工夫して話そうとする子が増えてきた。 ・相手を意識した言葉づかいや教科で使用する用語、学習した言葉などを用いて分かりやすく伝えることは十分でない。 <p>【学校の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じた話形指導（掲示・教師の言葉がけ・評価）をする。 ・月初めに、各学級で学習目標について確認する時間を位置付ける ・帰りの会で、目標の達成状況を自己反省し評価する。 	<p>Q:子供たちは、仲間の考えと比べて聞いたり、仲間に伝わるように話したりしています。</p> <table border="1"> <tr> <th>児童</th> <th>保護者</th> <th>教職員</th> </tr> <tr> <td>76%</td> <td>71%</td> <td>70%</td> </tr> </table> <p>【分析】</p> <p>学年の発達段階に応じて指導することや話型を示して具体的な学習方法を理解させて指導することで、「順序を表す言葉」「つなぎ言葉」を使って話したり順序立てて話したりする力が伸びてきた。また、仲間の発表につないで話すために、自分の考えとの相違点を考えながら聞く姿も見られるようになってきた。しかし、豊かな表現で話したり相手に伝えようと工夫して話したりする姿や、最後まで自信をもって話そうとする姿には弱さが見られ、継続して指導していく必要がある。さらに、個人差も大きく、仲間との学び合いを大切にしていけるとよい。</p>	児童	保護者	教職員	76%	71%	70%	<p>【めざす姿】</p> <p>仲間の発言とつなげて、相手に伝わるように工夫して話すことができる。</p> <p>【改善の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間の意見を主体的に聞き、つなげて話したり工夫して話したりすることのよさを伝えていく。指し示しながら話す姿や相手に聞いかけながら話す姿など、相手を意識して話す姿を価値付けていく。また、実態に応じて目標を設定し、その達成に向けて仲間と共に高め合っていく学習集団の育成を図る。互いによさを認め合い自信をもって表現していけるようにする。 ・ペア交流やグループ交流など、どの子にも話す機会を作り、指導や評価の場とする。また、教師の発問を精選し、子ども自らが主体的に考えていけるような授業を創る。
	児童	保護者	教職員							
76%	71%	70%								
<p>(家庭学習)</p> <p>家庭学習の目安の時間以上学習することができる。</p> <p>10分×学年+10分</p>	<p>【児童・生徒の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「仲間の学習方法」や「家庭学習の工夫の仕方」を紹介したりする取組により「家庭学習の内容を工夫して取り組める子が増えてきた。 ・目標の家庭学習の時間（学年×10+10分）をやり切れていない子もいる。 <p>【学校の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年ごと家庭学習のやり方を共通理解したり自主勉強の仕方を紹介したりする。 ・家庭学習の取組時間や内容を記録する取組カードを作り意識化をはかる。 ・PTA とタイアップして、中学校のテスト期間に合わせ家庭学習の取組強化週間を位置付け、アンケート結果を学級懇談会で話題にし、家庭教育力の向上を図る。 	<p>Q:子どもたちは、毎日家庭学習の目安以上の時間学習していますか。</p> <table border="1"> <tr> <th>児童</th> <th>保護者</th> <th>教職員</th> </tr> <tr> <td>81%</td> <td>77%</td> <td>78%</td> </tr> </table> <p>【分析】</p> <p>家庭学習の各学年の目安時間を達成している児童の割合は、児童、保護者、教師共に約7割を超えている。教師による学校での見届けや保護者による家庭での見届けを行うことで、定着が図られていると考えられる。特に「こつこつぐんぐん」の取組期間では保護者の意識の向上が見られた。また、アンケート結果から家庭学習の例を紹介したり、各担任から自主学習のよい例を紹介したりすることで、家庭学習の幅を広げていく姿も見られた。しかし、家庭学習への取組方法や意欲の部分では、児童と保護者の間で少しずれを感じる。児童と保護者では、児童の方が「進んで学習している」という意識が低い。児童の家庭学習に対する意欲の向上を図っていく必要がある。また、保護者によっても意識に差がある。</p>	児童	保護者	教職員	81%	77%	78%	<p>【めざす姿】</p> <p>毎日進んで家庭学習に取り組むことができる。</p> <p>【改善の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読や計算練習など毎日継続して取り組む学習については、学習方法を工夫し、意欲の向上につなげていく。引き続き、家庭学習の内容や方法を具体的に指導し、良い例を児童や保護者にも紹介していく。また、進んで学習することのよさを実感できるような指導をしていく。 ・家庭での生活リズムを見直し、児童が家庭学習に集中して取り組めるように環境を整えていく。また、保護者による意識の差を減らすために、家庭教育学級や学校便りなど、家庭教育の意義や在り方、実態や実例等を知らせていく場をもち、啓発していく。 	
児童	保護者	教職員								
81%	77%	78%								
生徒指導	<p>自分からすすんであいさつすることができる。</p>	<p>【児童・生徒の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の学校や限られた場所でのあいさつは良くなった。 ・低学年ほど教師の働きかけによって、意識が高まった。 ・地域や集合場所でのあいさつが弱いため、保護者の評価がなかなか上がらない <p>【学校の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員がお手本になる笑顔で進んで「おはよう」と挨拶をする。 ・児童会の委員会活動や通学班長指導や6年生の朝のあいさつ当番など児童が前面に出た啓発活動 ・教職員、民生委員、保護者による登下校時のあいさつの見届けと指導 ・学級指導や道徳におけるあいさつの啓発 ・地域への啓発（地区懇談会・ふれあい会議） 	<p>Q:自分からすすんであいさつしていますか。</p> <table border="1"> <tr> <th>児童</th> <th>保護者</th> <th>教職員</th> </tr> <tr> <td>79.3%</td> <td>74.3%</td> <td>70%</td> </tr> </table> <p>【分析】</p> <p>家庭・地域・学校で、自分から進んであいさつの項目は82%と子どもの意識は高いが、集合場所や登校時での子ども同士でのあいさつは48%と低く、保護者アンケートにおいてもあいさつし合う姿の弱さを指摘されている。あいさつの意味付けにおいて子どもたちの心に深化していないのではないかと感じる。また、「笑顔で元気よく」は、低中では83%と高く、教師の呼びかけによって意識は高まっているが、高学年は元気よく言う事への抵抗からか70%と数値が下がるのが課題である。横断歩道や児童玄関・校門などの場所での進んであいさつは、班長の呼びかけもあり頑張っている。通学班リーダー会や一斉下校時の振り返りでの指導が成果を出してきており、高学年のリーダー意識は高まっていると考えられる。</p>	児童	保護者	教職員	79.3%	74.3%	70%	<p>【めざす姿】</p> <p>自分から先にあいさつすることができる。</p> <p>【改善の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつを学級経営の柱として位置付け、良い姿を具体的に示し、その姿の意味を価値付け継続的に指導していく。良いあいさつを紹介し、全校に広めていく。（放送やまわりのカード）また、通学班リーダー会や一斉下校時の振り返りで見届け認めていく。（頑張りの価値付け・あこがれをもたせる） ・生活委員会やPTAによる「あいさつ運動」の継続により、相手に気持ち伝わるあいさつをする意識を高めていく。地域との連携を密にして、あいさつに関する情報を共有する。
	児童	保護者	教職員							
79.3%	74.3%	70%								
安全指導	<p>予想される危険を意識して、安全な登下校をすることができる。</p>	<p>【児童・生徒の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの児童は、安全に関するルールや約束を守って行動できている。 ・一部のできていないことへの指導が多く、児童が安全のためのルールを守れているという意識をもたせることができなかった。 ・班長がいるときの登下校の姿は「よい」と感じているが、普段の学年下校や仲よし下校で生かされていない傾向がある。 <p>【学校の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な朝の立哨指導や下校指導 ・分団会での登校班への具体的な危険箇所等の指導 ・通学班長への指導と通学班長の願いの班員への啓発 ・毎月の（状況に応じての）各学級でのKYTの指導 	<p>Q:予測される危険を意識して、安全な登下校をしていますか。</p> <table border="1"> <tr> <th>児童</th> <th>保護者</th> <th>教職員</th> </tr> <tr> <td>78.6%</td> <td>75.3%</td> <td>70%</td> </tr> </table> <p>【分析】</p> <p>「車や自転車が来ないか左右を確認して渡っています。」という児童の意識は81.3%と高い。登校においては、班長の働きかけ、地域の方の見守りによって安全な登校ができていくが、下校時には、地域の方や誰かが道を渡してくれる人がいると左右を確認しなかったり、前の子が渡ると続いて渡ったりという現状もある。教職員の「予測される危険を意識して安全に登下校しています。」の結果が70%との差から、児童の危険への意識の甘さを感じられる。</p>	児童	保護者	教職員	78.6%	75.3%	70%	<p>【めざす姿】</p> <p>予測される危険を意識して、安全な登下校や安全な生活をするすることができる。</p> <p>【改善の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団下校時、学年下校時を活用して、担当や担任が各班の現状を把握したり、ピンポイントで安全な登下校の指導をしたりしていく。 ・KYT担当を明確にし、月初めに毎月の指導内容を提案し、全校に安全な生活について放送で呼びかける。それを受け、各担任が、発達段階に応じた具体的な指導をしていく。 ・安全な生活について、家族全員で家庭での約束を決めたり、確認したりすること、家庭で習慣的に安全な生活について、語り、諭していくことを保護者に啓発していく。
	児童	保護者	教職員							
78.6%	75.3%	70%								